

## 本時のねらい

・ペアと協力して水筒の容積について任意単位を用いて数値化し、比べることができる。

## 本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・1人1台端末を使用し、結果を交流することで、児童が楽しんで学習活動を行う。
- ・視覚的に捉えやすくするために、コップに色をつけ数値化することによって、計算が苦手な児童も自分自身で比べることができる。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・iPad    ・AppleTV    ・電子黒板    ・授業支援アプリ（ロイロノート）    ・書画カメラ

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のめあてをつかむ</li> <li>めあて「くらべかたを かんがえよう」</li> <li>問題「1ねん すいとうナンバー1を きめよう」 (どちらがどれだけおおい?)</li> <li>○解決の見通しをもつ</li> <li>・任意単位による比較 同じコップを使い、コップ何杯かで比べる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解決手段を視覚化するために、iPad のミラーリング機能を使い、教員の iPad のワークシートを電子黒板に提示する。</li> </ul>
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアで水筒に水が何杯入るか調べる</li> <li>○調べた結果をペアでロイロノートにまとめる</li> <li>①結果の写真を撮る ②コップに色を塗る</li> <li>③何杯と〇〇と言葉で表す</li> <li>④完成したシートをペアに送る</li> <li>○友だちと結果を交流し、違いはいくつか比べる</li> <li>・「いの水筒は、何杯と〇〇です。うの水筒は、何杯と〇〇です。違いは〇〇だね。」</li> <li>①2枚目のシートに違いを記入する</li> <li>②提出箱に2枚のシートを提出する</li> <li>○結果シートを全体で共有する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業支援アプリ（ロイロノート）で、2枚のシートを送り、調べた結果を視覚化できるように写真を撮影し、手書きか、ひらがな入力で作成させる。</li> <li>・ICT 機器の活用スキルの習得も目指し、課題設定する。課題を個々に送る</li> <li>・互いのシート（図や言葉）を見て比べよう伝える。</li> <li>・交流目標が達成した児童はロイロノートの提出箱に提出し、全員が目標を達成できるように電子黒板に回答箱を提示する。</li> <li>・本時のねらいである任意単位を用いて数値化することで簡単に分かりやすく一度に比べることができることを実感させるため、電子黒板に全員の結果を表示する。</li> </ul>
まとめ (7分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まとめをする</li> <li>「コップのいくつぶんであらわすと、みずのかさもくらべられる」</li> <li>○振り返りを書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書画カメラを用いて板書を電子黒板に提示し、児童は各自のノートに写すようにする。</li> </ul>

## 1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：電子黒板を用いたワークシートの説明場面



写真2：調べた結果を授業支援アプリ（ロイロノート）に書き込んでいる場面



写真3：結果を交流し、比べている場面

## 児童生徒の反応や変容

- ・「くらべかたがわかった」「みんながいたからわかった」「さんすうがにがてだったけど、すきになった」といった振り返りが見られた。
- ・ロイロノートを使用した学習では、算数や書くことが苦手な児童も意欲的に活動していた。本時の学習を通して、周囲に目を向け友だちに関心を持ち交流する姿や達成感を味わう姿が見られた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・iPadを2人で1台や1人で1台など活動に応じて活用することで児童同士の交流が増え、互いの深い学びにつなげることができた。